

⑮ 公開特許公報(A) 昭62-172905

⑯ Int. Cl.⁴

識別記号

庁内整理番号

⑰ 公開 昭和62年(1987)7月29日

A 45 D 1/06

C-7618-3B

審査請求 未請求 発明の数 1 (全4頁)

⑱ 発明の名称 ヘアアイロン

⑲ 特 願 昭61-15052

⑳ 出 願 昭61(1986)1月27日

㉑ 発 明 者 吉 田 良 治 門真市大字門真1048番地 松下電工株式会社内

㉒ 出 願 人 松下電工株式会社 門真市大字門真1048番地

㉓ 代 理 人 弁理士 石田 長七

明 細 書

1. 発明の名称

ヘアアイロン

2. 特許請求の範囲

(1) 一对の取っ手を回転自在に駆支するとともに先端部にはヒータにより加熱される熱板を備えたヘアアイロンにおいて、熱板の一面はフラット面に、他面を凹凸波形状面に形成し、一对のフラット面に対向する位置と一对の凹凸波形状面に対向する位置とに位置変更自在に上記取っ手を駆支して成ることを特徴とするヘアアイロン。

(2) ヒータを熱板内において偏芯回転自在に保持してヒータをつまみ操作による回転にて熱板の対向内面に交互に当接自在に構成して成ることを特徴とする特許請求の範囲第1項記載のヘアアイロン。

3. 発明の詳細な説明

〔技術分野〕

本発明は、一对の取っ手を回転自在に駆支す

るとともに先端部にはヒータにより加熱される熱板を備えたヘアアイロンに関し、詳しくは熱板のフラット面によるストレートアイロンと凹凸波形状面によるワッフルアイロンとを一台のヘアアイロンにて容易に切り替えて行おうとする技術に関する。

〔背景技術〕

従来、一对の取っ手を回転自在に駆支するとともに先端部にはヒータにより加熱される熱板を備えたヘアアイロンにおいては、第5図(a)(b)に示すように、ストレートアイロンを行う場合にはフラット面4を有する熱板3aを取付け、そしてワッフルアイロンを行う場合には凹凸波形状面5を有する熱板3bに取り替えるものであり、この取り替えの手間を要するうえ、熱板3a,3bを取り外すときにやけどをすることがあり、又、取り外した熱板3a,3bの置き場所に苦慮し、更にヒータ2をオフにして熱板3a,3bを冷やして取り外す場合には、新たに装填した熱板3a,3bを加熱するまでに時間がかかる等の問題があった。

【発明の目的】

本発明はこのような問題に鑑みてなされたものであり、その目的とするところは、一台のヘアーアイロンにてストレートアイロンとワッフルアイロンとを行うことができるものでありながら、その切り替えをスピーディに行うことができるヘアーアイロンを提供することにある。

【発明の図示】

本発明のヘアーアイロンは、一対の取っ手部1, 1を回転自在に枢支するとともに先端部にはヒータ2により加熱される熱板3を備えたヘアーアイロンにおいて、熱板3の一面はフラット面4に、他面を凹凸被形成面5に形成し、一対のフラット面4, 4が対向する位置と一対の凹凸被形成面5, 5が対向する位置とに位置変更自在に上記取っ手部1, 1を枢支して成ることを特徴とするものであり、このように構成することによって、上記目的を達成したものである。つまり、一面にフラット面4が形成され、他面に凹凸被形成面5が形成された熱板3を有する取っ手部1, 1を一対のフラット面

4, 4が対向する位置と一対の凹凸被形成面5, 5が対向する位置とに切り替え自在に枢支することによって、一台のヘアーアイロンにてストレートアイロンとワッフルアイロンとを行うことができるものでありながら、ストレートアイロンとワッフルアイロンとの切り替えを取っ手部1, 1の回転のみで行うことができ、これらの切り替えをスピーディに行うことができるようにしたものである。

以下本発明の実施例を図面に基いて詳述する。

一対の取っ手部1, 1がその基礎部において回転軸6によって回転自在に枢着されていて、一対の取っ手部1, 1を一方に回転させて一方の面が対向する状態と、取っ手部1, 1を逆回転させて他方の面(裏面)が対向する状態とに切り替えることができるようにしてある。夫々の取っ手部1はその幅方向に分離できるようにしてあり、右半体7を左半体13に当接してビス8にて組み立てることができるようにしてある。このような組み立て状態においてフラット面4を有する熱板材4

-3-

aと凹凸被形成面5を有する熱板材5aとを挟持するとともにヒータ支持棒9にてヒータ2の基礎部10を回転自在に支持し、ヒータ2と熱板材4a, 5a間において回転自在に配設してある。ヒータ2の先端部11は基礎部10に対して偏芯していて、先端部11に設けて基礎部10と同芯状にしてあるつまみ12を回転させることで、偏芯したヒータ2の先端部11を熱板材4a, 5aのいずれか一方に対向して、この対向した側の熱板材4a, 5aを加熱させることができるようにしてある。又、つまみ12の操作により、ヒータ2をいずれの熱板材4a, 5aにも接触しないがヒータ2は加熱されている加熱待機状態を得ることができるようにしてある。しかして第2図(a)のように、凹凸被形成面5, 5が対向するように、取っ手部1, 1を回転することで、ワッフルアイロンを行うことができ、そして第2図(b)のように、取っ手部1, 1を逆回転させて、フラット面5, 5が対向するようにすることで、ストレートアイロンを行うことができるのである。そしてこのような切り替えに際

-4-

して、つまみ12操作によりヒータ2をいずれの熱板材4a, 5aにも接触しない状態、即ちヒータ2の高熱状態を保っておき、切り替え後に切り替えられた熱板材4a, 5aに対向することで直ちに加熱を行うことができるものである。このようにヒータ2を加熱待機位置にしておくことで、即使用が可能で、又、例えば頭皮に当たる側の熱板材4a, 5aからヒータ2を離して、この側の熱板材4a, 5aの温度を高めないようにすることもできる。

尚、実施例においては取っ手部1, 1を回転軸6にて枢支したが、取っ手部1, 1を疎開部のような回転接合部でねじり回転自在に接続することで、一方の取っ手部1をねじり回転して、熱板材4a, 5aの切り替えを図ってもよい。

又、熱板材4a, 5aにて熱板3を構成したが熱板3の構成は種々設計変更可能である。

【発明の効果】

以上要するに本発明は、一面にフラット面が形成され、他面に凹凸被形成面が形成された熱板を有

する取っ手部を一对のフラット面が対向する位置と一对の凹凸成形面が対向する位置とに切り替え自在に駆支してあるから、一台のヘアアイロンにてストレートアイロンとワッフルアイロンとを行うことができるものでありながら、ストレートアイロンとワッフルアイロンとの切り替えを取っ手部の回転のみに行うことができ、これらの切り替えをスピーディに行うことができるという利点がある。

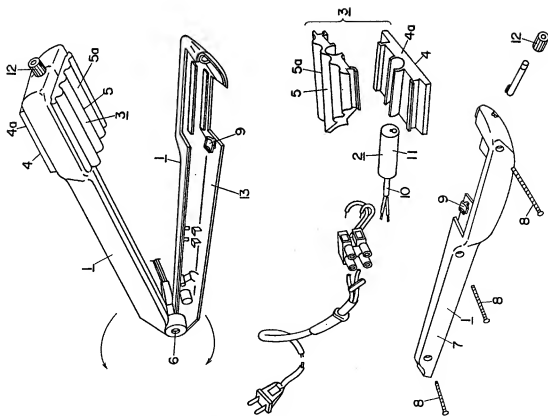
4. 図面の簡単な説明

第1図は本発明の一実施例の一部分解した斜視図、第2図(a)(b)は同上の切り替え作用を示す斜視図、第3図は同上のヒータの切り替え作用を示す説明図、第4図は同上の使用状態の斜視図、第5図(a)(b)は従来例の切り替え状態の斜視図であり、1は取っ手部、2はヒータ、3は熱板、4はフラット面、5は凹凸成形面である。

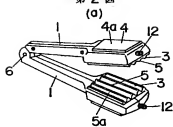
代理人 弁理士 石田 辰 七

-7-

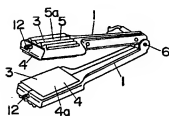
第1図



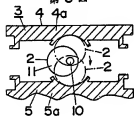
第 2 図



(b)



第 3 図

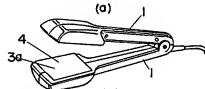


第 4 図



第 5 図

(a)



(b)

